

# 日本におけるキャリアデザインの変遷 その2 －人口減少社会における女子学生に対するキャリア教育についての考察－

## Changes in Career Design in Japan (2)

杉 浦 札 子

Reiko Sugiura

安 部 耕 作

Kosaku Abe

### (要約)

日本の経営に代表される従来型の人材マネジメントが機能しにくい国内企業に人材を輩出する大学等においては、学生自らがキャリアを切り開くことができる職業観・勤労観を確立する教育が必要である。

高大接続改革の在り方について検討されている今、本稿では学生が高等教育段階で体験したキャリア教育と学生自身が認識している効果を把握した。また、長期的なキャリア観を形成するための教育としては、多様な社会人の講話を提供することが、職業観・勤労観の確立を目指すキャリア教育としては高い成果が期待できることなど、今後、短期大学が取り組むべきキャリア教育の展開について考察した。

### (キーワード)

地方創生 キャリア教育 高大接続

### I. はじめに

人口減少やそれに伴う経済規模の縮小、地方の衰退が喫緊の課題となっている。まずは、これまでの国の動きを確認したい。

国は、平成26年9月に「まち・ひと・しごと創生本部基本方針」を打ち出し、人口減少を克服する社会や経済システムの新たな構築、地方の自主的な取り組みを提言している。

教育再生実行会議第6次提言は、学び続ける社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育のあり方について提言している<sup>1</sup>。大学等についても言及しており、大学等には全世代のための学びの場とし、学びやすい環境を整備することや、地域の産業や担い手をつくることを求めている。社会に対しては、多様性を認め合う社会へと転換し、従来の思考にとらわれない意識や仕組みが必要であるとしている。それに対して教育は、多様な経験を持つ人がそれぞれの能力や可能性を最大限伸長して活躍する全員参加型社会を実現するものへと根本的に転換することが必要としており、大学等もそうした社会の求めに応じていくことが必要になる。国や地方公共団体には、地域の文化や歴史を地域活性化に活用する取り組みの推進を求めていることから、大学等が連携してできることも少なくない。

中央教育審議会生涯学習分科会学習成果活用部会は中間まとめの中で、大学等のこととしては、就業・大学入学選抜での学習成果の証明に活用される検定試験の質の保証・向上のための方策などについて言及している<sup>2</sup>。

これらの国の動きに対して、地方に立地する大学は何を求められているのかを考えてみたい。人口減

少や経済規模の縮小の負のインパクトは地方において顕著であり、コミュニティの維持すら危ぶまれている地方自治体も少なくない。地方創生が叫ばれる所以であり、地方創生のために、地方に立地する大学に求められていることは、まずは地域振興、地域への貢献であろう。では、大学は何でもって地域振興、地域へ貢献すべきであろうか。大学が教育機関ということを鑑みれば、まずは人材育成であることは言うまでもなく、地方創生という観点からも、地域経済に貢献する地域の人材の育成が求められている。若年者が高等学校卒業後に都市部の大学に進学し、そのまま都市部に定着することで地方は過疎化し、都市は過密化する歪な課題が生じている。地方に立地する大学は、地域経済が求める人材育成の場合であるとともに若年者に選択される進学先として魅力ある教育を提供する場となり、都市部に流れる若年者を地元に留めることで、地域の人材を地元に吸収し定着させていく必要がある。

また、全員参加型社会と打ち出されているように、女性や高齢者など全ての人々が社会に参画して地方創生を実現していく必要がある。全員が社会に参画していくためには、ワーク・ライフ・バランスの取り組みを広げていくことも重要になる。これまで地方の短期大学における女子教育には、一定の実績が認められているが、これらの実績をさらに発展させていくことも大切になるだろう。地域の人材が地域の大学に進学し、地域の企業等に就職し、地域経済の担い手となっていくためには、キャリア教育は重要である。高大接続と言われて久しいが、今後は、高等教育のみならず初等中等教育との連携も視野に入れながら、どうキャリア教育を展開していくかを大学は考えていかなければならない。

地域経済への貢献を視野に入れたキャリア教育を展開するためには、地域の企業等との連携も不可欠で、これまで以上に地域とつながる必要がある。地方創生の観点からは、経済だけでなく、観光や文化面での地域との連携も視野に入るなど、幅広い分野で地域と連携するキャリア教育や地域連携教育プログラムが必要である。これらのことでの大学が地域に貢献できれば、地方に立地する大学の存立意義が地域から認識されると考える。

## II. 地方創生と地域に求められる人材育成

今後、長期的に高齢化・生産年齢人口の減少を伴いながら日本の総人口が減少することは、日本創生会議が警鐘を鳴らしたとおりである。人口減少に伴って必然的に経済市場や消費規模は縮小する。そのような中で、日本企業が従来型の右肩上がりの経済成長・市場拡大を前提とした日本の経営を維持していくことは不可能である。これまでの日本の経営に見られた、組織の目標達成を重視し、個人の多様性よりも画一的に減私奉公を求める集団主義から、個人の多様性を重視し、多様な価値観に応じた働き方を選択可能とすることで個人のモチベーションを高め、組織貢献を獲得する人材マネジメントへの展開が求められている。

労働力や市場が縮小する人口減少社会では、多様な人材がそれぞれの能力を発揮できる多様な働き方が必要である。そのためには、これまでの明確に職務等を契約で定めない「メンバーシップ型正社員」の他に、「ジョブ型正社員」を拡大していくことも必要になる<sup>3</sup>。「メンバーシップ型正社員」は、組織の目標達成を重視し、個人の多様性よりも、画一的に組織への貢献を求める集団主義的資源管理にマッチした人材モデルといえる。ジョブ型正社員は、個人の多様性を重視して、多様な価値観に応じた

働き方を選択させることで、個人のモチベーションを高め、組織貢献を獲得する人材マネジメントにマッチした人材モデルといえる。多様な人材がそれぞれの能力を発揮できる多様な働き方「人材モデル」が、労働力や経済市場が大きく縮小する人口減少社会では必要になる。また、同一個人においても、ライフステージやライフイベントの変化に伴って働き方や働く動機、生き方は変化することから、そのような個人の捉え方としてエドガー・シャインは複雑人モデルを提唱している<sup>4</sup>。筆者らは、複雑人モデルは今後の人材育成の一つの指針になるとを考えている。

地方創生実現に向けて、高等教育機関の中でも地方の短期大学が取り組むべき人材育成とはどのようなものであるべきであろうか。国は、高等教育機関に対しては創造性、革新性に優れたビジネスや企業家育成を掲げ求めている。しかし、2年間の修業年限である短期大学においては、企業家マインドの種を蒔くことができても芽吹かせ育成することは困難である。筆者らは、高等学校を卒業した地元の学生を広く受け入れ、地域に貢献できる人材を地元に輩出し定着させることが地方の短期大学の使命であると考えている。一人ひとり異なるキャリアを形成しながら短期大学に入学してくる学生の立場・視点を大切に育成するためには高大接続が重要である。さらに魅力あるポリシーやカリキュラムを提供することで、都市部へ流出する学生数を減少させることができると考えている。人口の社会増加をめざし、地域の高等教育機関として高等学校と連携して地域に根を張る社会人を地道に育成していくことが使命である。

そのために、短期大学は長期的・短期的にしっかりととした職業観・勤労観を学生に身に付けさせることが必要になる。仕事と生活の調和についての意識をはじめ、家族計画や人生計画を視野に入れた長期的なキャリア・デザインをおぼろげながらにでも短期大学生活の中で考えさせていく必要がある。長期的なキャリア・デザインを考えることは、それを可能とする仕事や働き方はどのようなものか、その仕事に就くためにはどのような経験や資格、教育等が必要になるかという短期的なキャリア・デザインを構築することにつながる。都市部ではなく、地方で生きていくことを選択したらどのようなキャリア形成が可能になるのか。地方にはどのような産業や企業があり、それら企業に就職するためには、どのような資質が求められているのかなど、学生自らが探究するきっかけとなる。

地方に立地する短期大学は、都市部の大学等に比べて、年度ごとに地域に輩出する学生数が少ないこと、学生が希望する就職先数が少ないと捉えて、密に連携する地域企業を絞り込むことで人材ニーズをより的確に把握することが可能であると考える。また、人材ニーズをキャリア教育や地域連携教育プログラム等の教育プログラムとして学生に還元していくことが比較的容易である強みもある。

短期大学は修業期間が短いため、短期的に効果の出るキャリア教育を展開しなければならない。正規社員と非正規社員の違いなど労働に関する必要な知識をしっかりと教えていく必要もある。また、「ブラック企業」等の労働基準法遵守に関連した問題について不安を感じている学生が増加していることもあり、どんなことが違法となるのかをはじめ、労働に関する確かな知識を習得させ社会に輩出する必要性が高まっている。労働基準法をはじめとする労働法関連の制度や知識を学生に提供することは重要度を増している。

短期大学に入学した学生に対して、どのような教育プログラムが、個々の学生のキャリア形成のため

に成果があると推察されるのか。次節では、短期大学1年生を対象に、入学前に経験した体験で職業観・勤労観を確立する成果を実感しているのかを問うアンケートを実施した。その調査結果から、短期大学では、どのようなキャリア教育を展開すべきであるのかを考察する。

### III. 職業観・勤労観の育成

国内企業においては、日本の経営をはじめ、従来から行われてきた人材育成をはじめとする人材マネジメントが機能しにくい現状下にあることは既に指摘した。このようななか、企業に人材を輩出する高等教育機関では、学生自身に長期的・短期的視野でキャリアを切り開く力とともに職業観・勤労観を培う必要がある。本節では、短期大学に進学した学生が、入学前に経験したキャリア形成に結び付く体験を通して、職業観・勤労観を確立する成果を実感しているのかなど把握することを目的に、アンケート調査を実施した。

アンケート調査実施時には、アンケート調査の目的や倫理的配慮に関することなどを口頭で伝え、同意の得られた学生のみ提出を求め、以下の要領にて実施した。なお、無記名で回答を得た。短期大学入学前の体験を問うているため、卒業した高校の学科を属性として聞いている。卒業した高校の学科は、普通科卒業が70.6%、農業・工業・商業など職業学科である専門学科<sup>5</sup>が23.5%、その他が5.9%である。

#### 1. 調査概要

- 実施時期 : 2015年7月30日(木)
- 調査対象 : 高田短期大学キャリア育成学科1年生 \*留学生を除く
- 配布回収 : 紙面を直接配布・直接回収
- サンプル数 : 68サンプル

#### 2. 調査結果

「高校生の時に、社会に出て働くことや自分の仕事の適性を知る上で、成果のあったものはどれですか(複数回答)」に対して、「アルバイト」が最も多く40.3%、次いで「クラブ活動・課外活動」13.4%、「進路相談」11.9%、「インターンシップ」「進路・職業選択に関連する授業」がそれぞれ10.4%などの結果となった(図1)。卒業した高校の学科別でみると、普通科では、「アルバイト(43.8%)」に次いで、「特になし」と「クラブ活動・課外活動」がともに14.6%となり、専門学科(職業学科)では「アルバイト(37.5%)」に次いで、「インターンシップ(25.0%)」、「進路相談(18.8%)」で、「特になし」は6.3%にとどまっている。

「高校生のときの体験で、自身にどのような力が身に付きましたか(複数回答)」に対して、「仕事や働くことへの関心が向上した」が最も多く27.3%、次いで、「積極的に人間関係を形成し、協力・協働してものごとに取り組むことができるようになった(24.2%)」、「前向きに自己の将来を設計することができるようになった(13.6%)」の順となった。「特になし」は12.1%であった。

表1は、「高校生の時に、社会に出て働くことや自分の仕事の適性を知る上で、成果のあったものはどれですか」と「高校生のときの体験で、自身にどのような力が身に付きましたか」のクロス集計した

結果である。回答サンプル数が5以上のカテゴリーで、30.0%以上の値を示す欄に網掛けをしている。学生自身が、高校生の時に、社会に出て働くことや自分の仕事の適性を知る上で成果を実感したものにアルバイトを上げる比率が最も高かったが、アルバイト経験により自身についた力に「仕事や働くことへの関心が向上した」をする比率が34.6%、次いで、「積極的に人間関係を形成し、協力・協働してものごとに取り組むことができるようになった」が30.8%となっている。

「仕事や働くことへの関心が向上した」高校生の時の体験には、「インターンシップ」「進路相談」がそれぞれ57.1%、50.0%と高い。「積極的に人間関係を形成し、協力・協働してものごとに取り組むことができるようになった」体験には、「クラブ活動・課外活動」が55.6%と高く、「前向きに自己の将来を設計することができるようになった」体験には、「進路・職業選択に関連する授業」「親や身近な人の仕事を見てきたこと」がそれぞれ42.9%、40.0%と高い。

これら「高校生の時に、社会に出て働くことや自分の仕事の適性を知る上で、成果のあったものはどれですか」「高校生のときの体験で、自身にどのような力が身に付きましたか」2つの質問項目は、複数回答可能項目として提示したが、「特になし」を除くすべてのカテゴリーの回答比率合計値が、ともに低く、キャリア形成に結び付く経験を重ねていないことがわかる。

「社会に出て働くことや自分の仕事の適性をさらに深く知るために、どのようなことが必要と感じますか（高校時代に何が不足していたか）（複数回答）」に対しては、表2の通り「アルバイト等の有償の勤労体験」が最も多く43.9%、「きめの細かい進路・就職指導（33.3）」「職業人講話・企業説明会等（27.3%）」の順となった。高校生の時に、社会に出て働くことや自分の仕事の適性を知る上で成果のあったと自覚する体験に、「社会人・職業人講話」「職業人インタビュー」を上げる学生は少なかったが、「これからの中短期大学での教育に求めることはなんですか」と自由記述で回答を求めた結果にも、「たくさんの職業の人の話を聴きたい」「講演会をもっと聞いてほしい」「様々な人の講話を聴いて意識を高めたい」など、社会人・職業人の話を聞き学びたいと考える学生が多く存在した。

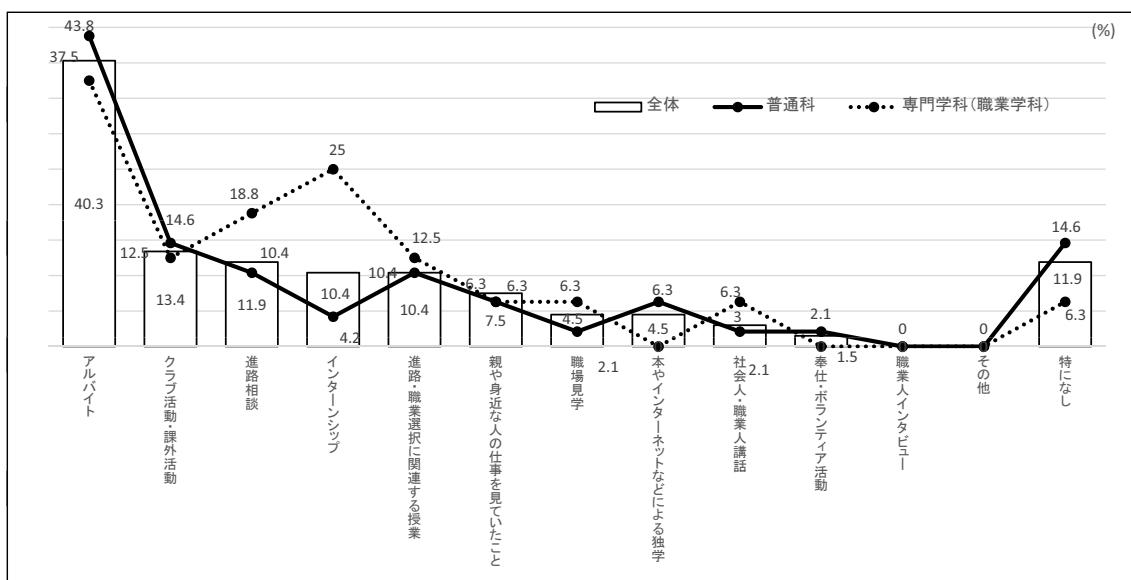


図1 卒業学科別×高校生の時に、社会に出て働くことや自分の仕事の適性を知る上で、成果のあったものはどれですか<sup>6</sup>

表1 高校生の時に、社会に出て働くことや自分の仕事の適性を知る上で、成果のあったものはどれですか  
 ×高校生のときの体験で、自身にどのような力が身に付きましたか(複数回答)

|     |                  | (MA) |                  |       |       |                     |                           |               |                                     |                                     |       |      |
|-----|------------------|------|------------------|-------|-------|---------------------|---------------------------|---------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------|------|
|     |                  | 全体   | 仕事や働くことへの関心が向上した | うになつた | うになつた | 前向きに自己の将来を設計することができ | 自らの意志と責任による進路選択ができるようになつた | 自身の仕事の適性がわかつた | 正社員か非正規社員か等、どのような働き方が自身に向いているかがわかつた | 正社員か非正規社員か等、どのような働き方が自身に向いているかがわかつた | その他   | 特になし |
| n   | 全体               | 66   | 18               | 16    | 9     | 7                   | 7                         | 5             | 4                                   | 0                                   | 8     |      |
|     | アルバイト            | 26   | 9                | 8     | 2     | 5                   | 3                         | 2             | 2                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | クラブ活動・課外活動       | 9    | 1                | 5     | 2     | 2                   | 2                         | 0             | 0                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | 進路相談             | 8    | 4                | 1     | 3     | 0                   | 1                         | 3             | 1                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | インターンシップ         | 7    | 4                | 0     | 0     | 1                   | 1                         | 0             | 1                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | 進路・職業選択に関連する授業   | 7    | 2                | 1     | 3     | 2                   | 1                         | 2             | 1                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | 親や身近な人の仕事を見ていたこと | 5    | 2                | 0     | 2     | 0                   | 1                         | 1             | 0                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | 職場見学             | 3    | 2                | 0     | 0     | 1                   | 0                         | 0             | 1                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | 本やインターネットなどによる独学 | 3    | 2                | 0     | 1     | 1                   | 0                         | 2             | 1                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | 社会人・職業人講話        | 2    | 0                | 0     | 1     | 0                   | 0                         | 0             | 0                                   | 0                                   | 1     |      |
| 横 % | 奉仕・ボランティア活動      | 1    | 0                | 1     | 0     | 0                   | 0                         | 0             | 0                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | 職業人インタビュー        | 0    | 0                | 0     | 0     | 0                   | 0                         | 0             | 0                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | その他              | 0    | 0                | 0     | 0     | 0                   | 0                         | 0             | 0                                   | 0                                   | 0     |      |
|     | 特になし             | 8    | 0                | 1     | 0     | 0                   | 0                         | 0             | 0                                   | 0                                   | 7     |      |
|     | 全体               | 100  | ①27.3            | ②24.2 | ③13.6 | 10.6                | 10.6                      | 7.6           | 6.1                                 | 0.0                                 | 12.1  |      |
|     | アルバイト            | 100  | 34.6             | 30.8  | 7.7   | 19.2                | 11.5                      | 7.7           | 7.7                                 | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | クラブ活動・課外活動       | 100  | 11.1             | 55.6  | 22.2  | 22.2                | 22.2                      | 0.0           | 0.0                                 | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | 進路相談             | 100  | 50.0             | 12.5  | 37.5  | 0.0                 | 12.5                      | 37.5          | 12.5                                | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | インターンシップ         | 100  | 57.1             | 0.0   | 0.0   | 14.3                | 14.3                      | 0.0           | 14.3                                | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | 進路・職業選択に関連する授業   | 100  | 28.6             | 14.3  | 42.9  | 28.6                | 14.3                      | 28.6          | 14.3                                | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | 親や身近な人の仕事を見ていたこと | 100  | 40.0             | 0.0   | 40.0  | 0.0                 | 20.0                      | 20.0          | 0.0                                 | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | 職場見学             | 100  | 66.7             | 0.0   | 0.0   | 33.3                | 0.0                       | 0.0           | 33.3                                | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | 本やインターネットなどによる独学 | 100  | 66.7             | 0.0   | 33.3  | 33.3                | 0.0                       | 66.7          | 33.3                                | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | 社会人・職業人講話        | 100  | 0.0              | 0.0   | 50.0  | 0.0                 | 0.0                       | 0.0           | 0.0                                 | 0.0                                 | 50.0  |      |
|     | 奉仕・ボランティア活動      | 100  | 0.0              | 100.0 | 0.0   | 0.0                 | 0.0                       | 0.0           | 0.0                                 | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | 職業人インタビュー        | 0    | 0.0              | 0.0   | 0.0   | 0.0                 | 0.0                       | 0.0           | 0.0                                 | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | その他              | 0    | 0.0              | 0.0   | 0.0   | 0.0                 | 0.0                       | 0.0           | 0.0                                 | 0.0                                 | 0.0   |      |
|     | 特になし             | 100  | 0.0              | 0.0   | 0.0   | 0.0                 | 0.0                       | 0.0           | 0.0                                 | 0.0                                 | 100.0 |      |

表2 社会に出て働くことや自分の仕事の適性をさらに深く知るためにには、どのようなことが必要と感じますか  
 (高校時代に何が不足していたか)

| No. | カテゴリ                          | 実数 | %    |
|-----|-------------------------------|----|------|
| 1   | アルバイト等の有償の勤労体験                | 29 | 43.9 |
| 2   | きめの細かい進路・就職指導                 | 22 | 33.3 |
| 3   | 職業人講話・企業説明会等                  | 18 | 27.3 |
| 4   | 長期間のインターンシップ                  | 9  | 13.6 |
| 5   | 社会に出るという切迫感                   | 9  | 13.6 |
| 6   | クラブ等の課外活動                     | 7  | 10.6 |
| 7   | 自身の就労と家庭や社会との関わりを関連づけて考えさせる講義 | 7  | 10.6 |
| 8   | その他                           | 3  | 4.5  |
|     | サンプル数 (% ベース)                 | 66 | 100  |

### 3. 考察

「高校生の時に、社会に出て働くことや自分の仕事の適性を知る上で、成果のあったものはどれですか」という設問に対して、「アルバイト」(40.3%) が圧倒的に高く、次の「クラブ活動・課外活動」(13.4%) を大きく引き離していることが注目される。賃金が支払われ、より仕事の実態に近い経験をすることが職業観・勤労観に役立つと判断した学生が多く、それは、「進路相談」(11.9%)、「インターンシップ」と「進路・職業選択に関連する授業」(10.4%) のような座学や賃金の発生しない労働体験よりもはるかに高い数値であることからも読み取れる。「インターンシップ」や「進路相談」よりも「クラブ活動・課外活動」の方が、数値が高いことも興味深い結果である。これは、学生が社会人には積極的な人間関係の構築や協働することができる力が求められていることを理解しているからであり、クラブ活動や課外活動がその力を育成する大切な場となっていることがわかる。

前向きに自己の将来を設計することができるようになった」体験は、「進路・職業選択に関連する授業」と「親や身近な人の仕事を見てきたこと」の数値が高い。長期的なキャリア形成には、座学やゲスト講師等の職業観・人生観伝播講座等の教育的効果が高い結果となり、それは、「これからの中短期大学での教育に求めることはなんですか」という自由記述の設問に「たくさんの職業の人の話を聴きたい」「様々な人の講話を聴いて意識を高めたい」等の社会人・職業人の話を聴きたいと多数の学生が記述したことからも裏付けられる。

## IV. おわりに

前節のアンケート調査結果で「社会に出て働くことや自分の仕事の適性をさらに深く知るために、どのようなことが必要と感じますか（高校時代に何が不足していたか）」の問い合わせに対して、「アルバイト等の有償の勤労体験」の次に「きめの細かい進路・就職指導(33.3%)」の回答が多い結果であったことからも、短期大学生に対しては、きめ細かい指導は不可欠である。

アンケート調査結果からは、短期的なキャリア観を形成するための教育としては、アルバイトに代表される有償労働体験が、長期的なキャリア観を形成するための教育としては、キャリア教育全体の枠組みの中で、多様な社会人の講話や進路・職業選択に繋がる授業を提供していくことが最も成果があることが見込まれる。これらの短期的・長期低キャリア観の形成のために、きめ細かい指導で個々の学生を支援していくことが短期大学に求められるキャリア教育であることがアンケート調査結果からは読み取ることができた。これに、地域企業の人材ニーズを把握してキャリア教育に反映し、より精緻に地域に求められている人材を輩出していくことが地方の短期大学に求められるキャリア教育といえる。

### 註

1. 教育再生実行会議「『学び続ける』社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について」平成27年3月4日.
2. 中央教育審議会生涯学習分科会学習成果活用部会「中央教育審議会生涯学習分科会学習成果活用部会中間まとめ」平成27年9月16日.

3. 濱口桂一郎『若者と労働 「入社」の仕組みから解きほぐす』中央公論新社、2013年。「ジョブ型正社員」は濱口が提唱した、職務や勤務場所等を限定した新たな雇用形態のこと。
4. Schein,E.H. (1965),Organizational,Psychology.Prentice-Hall,inc(松井賛夫訳『組織心理学』岩波書店,1966)。
5. 専門学科のうち職業学科には、農業 工業 商業 水産 家庭 看護 情報 福祉を含んでいる。
6. 高校生の時に、社会に出て働くことや自分の仕事の適性を知る上で、成果のあったものはどれですか」の問い合わせに対して、卒業した学科「その他」に該当する学生のうち有効回答数が1サンプルであったため、グラフ表記から省いている。